

令和6年度入学試験問題（学校推薦型選抜）

小論文（初人社）

解答例（あるいは出題の意図）

出題の意図

本論文では、メタ倫理学という、「道徳」「倫理」を考える際に、議論や考えの問題意識、論理展開を再考して、改めて解決に向けて進んでいくための学問を扱っている。日常でも、「そもそも」と考えることはあり、決して受験生にとって困難な内容ではないと考える。

問1では、文章の要約を求める。問2では、問いを付した上で、日常にある、環境・文化・生活に関する事柄について「そもそも」を使って論述することを求める。これらによって、大学で自ら考え、教育学や関係諸科学について学んでいくための基礎的な能力・技能を評価する。

解答例

問1

メタ倫理学は、倫理についてのそもそもを問う学問で、この学問の考え方に触れることで、道徳における思考や議論の前提のずれを整理、解消に向かわせたり、視野を広げ、先入観や思い込みに気づかせてくれたりするきっかけを得ることができる。

(p.8 の①、p.11 の②、p.12 の③から説明できているかどうかを採点する。)

問2

(解答例)

問い　なぜ若者は選挙で投票をしないのか

国政選挙や地方選挙が終わった後に、若者の選挙における低投票率を問題視した新聞記事やニュースがよくみられる。民主主義社会において、選挙は自らの考えを政治に反映させる主要な機会の1つであることから、選挙に参加しないということは自らの思い描く社会の実現を放棄したもので、社会や自らの現状を改善したいと考えていないことの表れだと捉えられる。

だが、これは若者だけの問題なのであろうか。そもそも少子高齢化社会にあって、高齢者を優遇する政策が優先され、それによって若年層を支援する政策が後回しにされるシルバー・デモクラシーとも揶揄される政治の現状にこそ課題があるのではないだろうか。

(以下 略)